

# A Way of Life

## —Seko Koichi—

21号

平成28年3月

世耕弘一先生建学史料室広報

### 訪問者二万人を突破

### 不倒館―創設者世耕弘一記念室

不倒館―創設者世耕弘一記念室は平成二十七年九月二十七日、開設以来の訪問者が延べ二万人を突破しました。

この日は、「オープンキャンパス2015」と「近大に帰ろう!!ホームカミングデー2015」の同時開催日。爽やかな秋晴れの下、東大阪キャンパスは、多くの来場者や近畿大学卒業生とご家族で賑わいました。

不倒館では、前日二十六日に展示内容をリニューアルしたばかり。創設者世耕弘一の「情熱の教育者」と「反骨の政治家」、それぞれをテーマにした展示を公開しました。また、現在進行中の東大阪キャンパスを再編する「超近大プロジェクト」にあわせて、航空写真やキャンパス完成予定図を展示し、近畿大学の過去から未来への変遷をたどるコーナーも設けています。

### 二万人目はご夫妻

二万人目に訪れたのは、本学校友の橋村和典さん（平成十七年法学部卒業）と智子さんご夫妻。現在お住まいの名古屋市で参加した東海地区新卒業生歓迎会で、ホームカミングデーの案内を受け、十年ぶりの母校を散策中でした。橋村さんは「在学中になかった不倒館に驚きま

したが、立ち寄ったら二万人目の来場者ということに更に驚きました。ホームカミングデーでは在学時代を懐かしむことができました。また、こういった施設を新たに導入している、近大の革新にも触れることができ嬉しかったです」とコメントされました。

不倒館は、本学創設者であり、初代総長の世耕弘一先生が掲げた建学の精神や教育への情熱を形あるものとして、後世に残し伝えていくことを目的として、東大阪キャンパス内に平成二十一年九月十二日、開設されました。

開設から三年七カ月後の平成二十五年四月に訪問者数が延べ一万人に到達し、それから二年五カ月後のこの日、二万人を突破。一人目よりも一年以上早く二万人を迎えることとなりました。

### 自校学習の教材へ

開設以来、多くの学生生徒や教職員がゼミや自由見学で訪れ、実際に乗車できる人力車に親しむことで創設者世耕弘一の当時の苦勞を偲ぶとともに、直筆の書に込められた思いを感じることで建学の精神を学ぶなど、自校学習の生

きた教材として活用されています。

不倒館は、週に二回の通常開館をはじめ、オープンキャンパスなど主な大学行事にあわせて開館しています。訪問者は年々増え、リピーターも多くなりました。特に、ゼミや附属学校など、団体での見学が増えています。

開館日は、不倒館ホームページに掲載。各団体での見学は、別日程でも受け付けています。お問い合わせは、ダイヤルイン（〇六）四三〇七一三〇九一の建学史料室まで。

不倒館 ホームページ

<http://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/futokan.html>



二万人目の訪問者となった橋村和典さん（左）と智子さん（右）

## アーカイヴズ研究活動報告

## 現況調査報告

## 第二回総務部校友課現況調査

(平成二十七年八月五日)

建学史料室研究員・井田泰人が総務部校友課(10号館10階)の保管資料を調査した。

前回調査後に挙げた課題である『校友名簿』(近畿大学、大阪専門学校)の内容確認と目録作成を行った。今回の作業では目録は完成に至らなかった。次回以降も同じ作業を行うことにし、早期完成を目指したい。

次年度の目標としては、『近畿大学校友会報』、『近畿大学校友会報幹事会議資料号』、卒業生の寄贈品クラブ及びオリンピックに関する記念品などの目録作成に取り掛かり、完成させることを挙げておく。

(短期大学教授)

建学史料室研究員 井田 泰人

## 第二期勉強会開催報告

## 第一回(通算第十回)勉強会

(平成二十七年十一月二日)

近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史料の収集・整理に関する調査・研究(第二期・平成二十七年十月～二十九年九月)の主な活動内

容と研究員の分担が検討、決定された。

また、第一期調査・研究報告書冊子の編集作業内容と、建学史料室広報誌投稿規程について確認された。その他、「(関西地区)第一回学園アーカイブセミナー」への参加報告が行われた。

(文芸学部准教授)

建学史料室研究員 酒匂 康裕

## 第二回(通算第十一回)勉強会

(平成二十八年二月二十二日)

前回決定した第二期の研究・調査計画に関して、中央図書館調査の調査・研究協力者として建学史料室職員の澤田和典が加わることが了承された。第二期研究計画として、総務部総務課・管理部所蔵資料の調査計画とテーマ別調査二(旧制期の課外活動に関する史料)の調査計画を検討した。また、平成二十八年度学内研究会の提案を審議し、承認した。

調査・研究の報告として、第一回中央図書館調査報告と第一回広島大学文書館研究集会の参加報告が行われた。次に、第一期調査・研究報告冊子の編集の進捗状況が報告された。最後に、建学史料室からの情報発信と広報誌の校正に関する連絡があった。

(九州短期大学教授)

建学史料室研究員 三木 一司

## 近畿大学をめぐる史料 5

## 商学部から商経学部へ

## — 商経学部設置認可申請書より —

経済学部准教授

建学史料室研究員 藪下 信幸

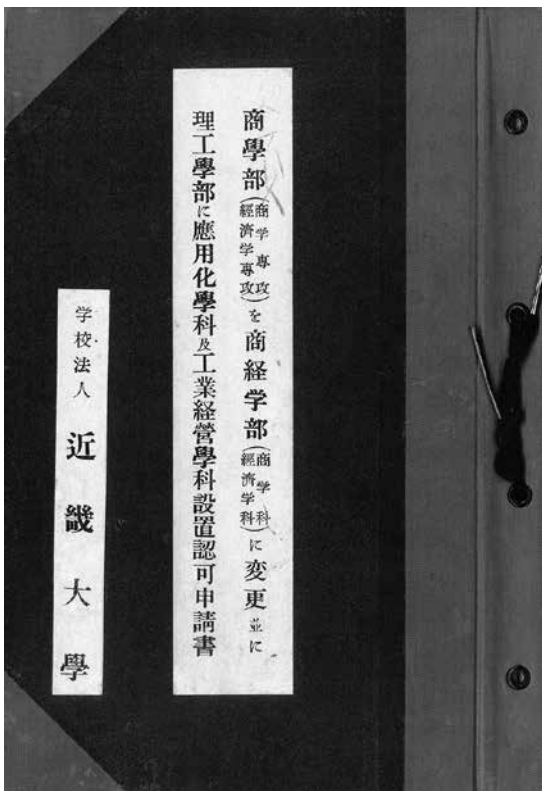
近畿大学総務部総務課では、大学や附属校の設置認可に関する申請書の写しを大量に保管している。今回紹介する資料は、これらのうち近畿大学が商学部を商経学部へと改組するにあたって文部省(当時)に提出した設置認可申請書(「商学部(商学専攻)を商経学部(商学専攻)に変更並に理工学部に應用化学科及工業経営學科設置認可申請書」(昭和二十七年十月九日付)、以下『設置認可申請書』と略す)である。

近畿大学は、大阪理科大学及

び大阪専門学校を母体とし、昭和二十四年(一九四九年)に新制大学として文部省から設置認可を受けた。商学部は、理工学部とともに近畿大学発足時からの歴史を持つ学部であった。

近畿大学の設立とともに始まった商学部であったが、学部開設してまもない昭和二十五年(一九五〇年)六月に朝鮮戦争が勃発し、これに伴いアメリカ軍を主力とする国連軍から大量の物資やサービスが日本企業に発注される、いわゆる「朝鮮戦争特需」が発生した。これにより第二次世界大戦後に低迷していた日本経済は息を吹き返すきっかけをつかむとともに、発注を受けた企業はアメリカの先進的経営システムを取り入れる必要に迫られた。

こうした日本経済が本格的に回復基調に向かう変化の中で、本学商学



総務課保管の設置認可申請書(副)

部が提供する商学や経済学に対する社会的ニーズもまた高まりつつあったことは想像に難くない。実際、『設置認可書』によると、昭和二十七年（一九五二年）度における商学部の在籍者数は、一部・二部ともに定員六四〇人に対してそれぞれ六七四人、七二六人にのぼった。また、『設置認可申請書』の設置要項「目的及び使命」の欄にも同様の趣旨の記述がある。

本学商学部は昭和廿四年三月設置認可されて以来鋭意内容の整備充実に努めて来たが特に全国有数の阪神商工業地帯を控え生産及貿易を中心とする商聖関係学科内容の強化刷新に強い要望があり仍つて此の際この要請に應え学科内容を整備し商学部（商学専攻・圣经济学専攻）を商圣学部（商学科・圣经济学科）に変更せんとするものである。

商経学部への組織変更の方針は、昭和二十七年（一九五二年）九月一日の理事会で可決され、同年十月九日付で世耕弘一理事長名義の『設置認可申請書』が当時の文部大臣岡野清豪氏に宛てて提出された。翌昭和二十八年（一九五三年）には、一月三十一日付で文部事務次官劔木亭弘氏から世耕理事長宛に、商学部の学部組織変更を許可する旨の文書が届けられた。

この事務次官からの文書には、「教員組織をさらに充実させること、当

分の間は文部大臣（大学設置審議会）との協議を行うこと、設備や器具の拡充を行うこと、学部の完成年度には二部の専任教員数が一部専任教員数の三分の一以上にすること」などの履行条件が付記されていた。『設置認可申請書』には、文部省からの助言をうけて科目名の追加や修正、追加教員の採用などの措置を行った痕跡が確認できる。

商学部から商経学部への学部組織変更に伴う主な改善点は、次の通りである。①各学年の学生定員は従来通り（商学科・経済学科の一部・二部いづれも八〇人）に据え置く一方で、専任教員は商学部からの継続者が多数を占めつつも、商学科専門科目担当者が四人、経済学科専門科目では五人、一般教養科目では二人の教員が新規に採用された。②学士号取得要件について、一般教養科目が三六単位以上、外国語科目が二四単位以上、体育科目が四単位以上という条件が引き継がれる一方で、専門科目は八〇単位以上から一五〇単位以上へと大幅に引き上げられた。③二部の専任教員数も、一部専任教員の約半数が確保された。近畿大学商経学部が、文部省の要請に適う改善を果たしていたことが分かる。

学部発足後も、昭和三十七年（一九六二年）に経営学科の増設が理事会で決議され、文部省からも認可を受けて、商経学部は三学科体制となった。昭和四十二年（一九六七年）には、商経学部の校舎として21

号館が新造され、教育設備の拡充も実現されたのである。『設置認可申請書』には、商経学部の将来構想として、「商経学部を将来商学部・経済学部に分離する」との記述もあった。この将来構想は約五十年後に実現された。平成十五年（二〇〇三年）、商経学部は経済学部（経済学科・総合経済政策学科）と経営学部（経営学科・商学科）に分離したのである。今から六十年以上も前に目標とされた、社会の要請に應えるための経済学・商学教育充実にむけての本学の努力は、二十一世紀の今もなお継続しているといえるのではないか。

**各地のアーカイブズ紹介 5**  
—(関西地区)—  
第一回学園アーカイブセミナー

教職教育部教授  
建学史料室研究員 富岡 勝

**大阪大学アーカイブズ**  
菅真城氏による講演

平成二十七年九月二十五日に大阪大学箕面キャンパスにおいて開催された出版文化社アーカイブ研究所主催の「(関西地区)第一回学園アーカイブセミナー」に参加した。内容は、大阪大学アーカイブズ教授の菅真城氏による「大学アーカイブズの意義と課題、将来への展望」というテーマの講演であった。  
菅真城氏には、平成二十四年十二

月十八日に本学で講演していただいたことがある。平成二十四年度学内研究助成研究「近畿大学の大学アーカイブズと学内資料の収集・保存に関する基礎的研究」(研究代表者・副学長増田大三)の取り組みの一環として、「大阪大学アーカイブズの設置と文書管理」について講演いただいたのである。ちょうど同年十月二十四日に大阪大学アーカイブズが設置された直後であったので、設置経緯や活動目標などについて詳しく聞くことができた。



今回の学園アーカイブセミナーでは、平成二十五年からの大阪大学

アーカイブズの動向や、大学アーカイブズの意義や将来展望についての新知見に触れることができた。

### 特定歴史公文書等の移管開始

大阪大学アーカイブズは、公文書管理法（平成二十一年法律第六十六号）に基づく特定歴史公文書（保存年限の満了した歴史的に重要な法人文書）や大阪大学の歴史に関する資料の管理を行うことを目指して設置された機関である。

国立大学の大学アーカイブズが特定歴史公文書等の管理を行うためには、他部署からの法人文書の移管先になる必要があるが、これは簡単には実現できない。内閣総理大臣から「公立公文書館等」施設の指定を受けなければならぬからである。この指定を受けるためには、国の細かいガイドラインに沿った書庫の整備（くん蒸、温湿度、照明、消火設備などを含む）がなされていることが条件となり、ハードルは決して低くない。

しかし、大阪大学アーカイブズは、早々に設備の整備と指定を受けるための手続きを進め、早くも設置半年後の平成二十五年四月一日に「国立公文書館等」施設の指定を受け、大阪大学の各部署から特定歴史公文書等の移管を受けることが可能となった。平成二十五年度に保存期間が満了した法人文書のうち、移管された法人文書は約二、二〇〇点弱であったという。

大阪大学以前に「国立公文書館等」施設の指定を受けた大学アーカイブズは東北大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、広島大学、九州大学の六大学（いずれも平成二十三年に指定）に過ぎなかったことを思えば、大阪大学アーカイブズは順調なスタートを切ったといえるだろう（なお平成二十七年には、東京大学と東京工業大学の大学アーカイブズも「国立公文書館等」の指定を受けた）。

以上は、本学からの地理的距離が近い上に設立時期の新しい大学アーカイブズの最新動向として興味深い。

### 箕面キャンパスの移転構想と

#### 大阪大学アーカイブズ

しかし大阪大学アーカイブズでは次のような課題もあるらしい。兼任室長一人と兼任教員十二人以外の専任教員（教授）は一人という人員で、特定歴史公文書の整理・保存・公開や大学の歴史に関する資料の収集・整理・公開・調査研究などを実行していくのは簡単ではないという。

さらに平成二十七年六月には大阪大学箕面キャンパスを箕面市内の別の地区へ移転する予定であることが発表された。大阪大学アーカイブズは、現在の箕面キャンパスの管理棟一階と三階に閲覧室や書庫などのスペースとして延べ七九八平方メートルの広さを確保しているが、移転後にこうした面積を確保できるかどうか

かは未定であるという。移転後も必要なスペースや設備を確保できるかどうかは、大阪大学アーカイブズの存在意義や理念について学内で十分に再確認される必要があると菅氏は述べている。

### 認証評価と大学アーカイブズ

このように大学アーカイブズの理念や必要性に関する学内理解の重要性が指摘されたが、大学アーカイブズの必要性に関連して、菅氏より新しい知見が示された。それは、今後、大学の認証評価においても大学アーカイブズが重視される可能性があるという点である。

大学の認証評価機関の一つである財団法人大学基準協会がつくった『新大学評価システムガイドブック』平成二十三年度以降の大学評価システムの概要（平成二十一年十月）において、「内部質保証」を適切に機能させるための「教育研究活動のデータ・ベース化の推進」として、「基礎データの組織的・継続的収集と管理」とともに「大学沿革史の編纂」や「大学文書の保存と活用」が挙げられていることを菅氏は指摘した。

もともと実際の評価に際して現在参照されている『大学評価ハンドブック（申請大学用・評価者用）』（大学基準協会）では、「大学沿革史の編纂」や「大学文書の保存と活用」は認証評価の対象として挙げられていない。

しかし大学基準協会の『新大学評価システムガイドブック』に「大学沿革史の編纂」や「大学文書の保存と活用」について記載されているということは、大学アーカイブズの必要性やその理念の重要性を大学基準協会も認識していることを示しているだろう。

この点は、平成二十三年十二月に寺崎昌男氏（東京大学名誉教授・立教大学名誉教授・桜美林大学名誉教授）による講演が本学で行われた際にも示唆されていたが、今回の菅氏の講演で具体的に知ることができた。

国立大学・公立大学・私立大学のいずれにおいても実施されている大学評価と大学アーカイブズが関係あるということは、私立大学における大学アーカイブズの必要性を物語っているといえるだろう。

さらに菅氏は「私立大学においては学内文書の移管が困難ということをよく耳にするが、公文書管理法の精神は私立大学の方が実現しやすい」と指摘していた。これは、国民の知る権利の保障や国民への説明責任（アカウンタビリティ）のための取り組みは、公文書管理法が適用されない私立大学においては、より柔軟なかたちで実施することが可能であることを指摘していると考えられる。

以上の知見は本学の大学アーカイブズについて考える上でも有意義であると思われる。

## 世耕弘一先生の戦後政界への復帰と 内務政務次官就任について

近畿大学名誉教授 建学史料室研究員 荒木 康彦

世耕政隆先生は「樹下去影」において、世耕弘一先生の選挙結果の受け止め方について、次のように述べられている<sup>1</sup>。

(前略) 選挙も闘争も、勝者がすぐれ負者が駄目なのだ、とわり切っていた。たとえ自分が敗れたときでも、愚痴や対立者を非難したりする口吻をいちどもさいたことはない。

ただ戦中、翼賛選挙に、同交会から非推薦で戦って、敗れた後だけは別であった。憤懣やる方ない表情で、ときどき来客を相手に官憲の干渉ぶり、政府の非、祖国滅亡の危機を声高に罵っているのを、よく耳にした。(後略)

選挙結果を常に虚心坦懐に受け入れられていた世耕弘一先生が、昭和十七年四月三十日に行われた第二十一回衆議院総選挙、所謂「翼賛選挙」に「敗れた後だけは別であった」ということから、この選挙で非推薦候補として戦われた世耕弘一先生に對して、当時の東條内閣や官憲等が加えた弾圧が如何に理不尽極まりないものであったか、が推測される。

た。世耕の支持者への米や肥料の配給を差し止めること、世耕への投票は戦争の敗北を意味すると仄めかす組織的な噂を流すこと、世耕の助力者や支持者が世耕からの庇護をうけている闇商人であると仄めかしつつ、彼らの世耕との関係について尋問せず、告発せずに投獄すること、そして支持者が怖くて訪問出来ないように世耕の宿屋のすべての出入り口に警備員を配置すること。

その他の独特な方法は、世耕の演説を知らせるポスターを掲示する人の逮捕であり、そして配置したポスターで演説の事前通告をしていなかった理由で世耕の演説を停止することであった。

大政翼賛会の推薦候補たち(中略)の利益のために世耕を落選させるように、東條陸軍大将(当時は首相で、自動的に大政翼賛会総裁)が個人的に和歌山県知事と警保局長に、命令していたことを、世耕は落選の後に告げられた、と述べた。

内務大臣安藤は、すべての県の知事に対するその優越的地位から、翼賛会に對立する候補者の選挙活動を知事が妨害すべしとの命令を知事に発していた、と世耕はまた聞いた。

大政翼賛会は一九四二年にすべての反対党を一掃して、この国で一党制度を創出する努力をしようと決心していたというのが、世耕の

個人的意見である。(後略)

ここから、当時の「翼賛選挙」で、非推薦候補者である世耕弘一先生の選挙運動に對する東條内閣や官憲及び大政翼賛会の妨害の凄まじさが、具体的によく分かり、慄然とせざるを得ない。また、その結果、和歌山県二区(定員三人)の当選者は全員推薦候補であり、世耕弘一先生は三位当選者の一三、六五〇票に大きく水をあけられて、六、三二九票に止まり、次点に終わられた<sup>3</sup>。

よく指摘されるように、『淮南子』の「人間訓 卷十八 七」の「塞上之人(塞の上の人)の件で「故福之爲禍禍之爲福化不可極深不可測也」(故に福の禍と爲り、禍の福と爲るは、化極む可からず、深測る可からざるなり)とある<sup>4</sup>。また、『史記』(卷百十三)の「南越列傳 五十三」の末尾部分には「因禍爲福成敗之轉譬若糾墨」(禍に因りて福と爲し、成敗の轉ずる、譬へば糾墨の若し)とある<sup>5</sup>。「糾墨」とは「糾える墨」の意味である<sup>6</sup>。

戦後になって、「翼賛選挙」で推薦候補として当選した者は公職追放となり、非推薦候補で当選した者でも公職追放になったりしている<sup>6</sup>。他方、この選挙で激しい選挙妨害等に遭って次点であった世耕弘一先生は、戦後の政界に復帰された後に、無論そうしたこととはなく、議会制民主政治の再建に尽力されることになった。

2  
終戦から僅か一月半ほどたった昭和二十年九月末に、世耕弘一先生が鳩山一郎等と共に新党結成の準備に着手されていることが、次のような史料から分かる<sup>7)</sup>。

官情報第七〇八號

昭和二十年九月二十八日 警視廳情報課長

鳩山派新党結成準備會開催ノ件

新党結成準備中ノ鳩山一郎一派ニアリテハ本日午後一時ヨリ丸ノ内常盤家ニ於テ準備會ヲ開催セルガ出席者ハ

鳩山一郎 松野鶴平 安藤正純  
芦田 均 紫安新九郎 河野一郎  
榎橋 渡 牛塚席太郎 花村四郎  
本多市郎 箸本太吉 中 助松  
世耕弘一 小島徹三

等約三十五名ニシテ  
午餐ヲ俱ニシタル後紫安新九郎座長トナリ協議  
ニ入り

新党ノ宣言、綱領並ニ當面ノ政策ノ骨子トナルベキ事項ニ就キ協議ヲナシ夫々意見ノ開陳アリタル後

一、事務所ハ常盤家ニ置キ十月一日ヨリ開設スルコト  
一、次回ハ十月七日午後一時ヨリ事務所ニ於テ準備會ヲ開催準備委員ヲ銓衡スルコト  
等ヲ決定同三時散會セリ

以上

ここに名前が挙げられている十四人の中の八人は非推薦候補として前述の「翼賛選挙」で戦った政治家であり、しかもその八人中四人（世耕弘一先生、鳩山一郎、安藤正純、芦田均）は同交會に属していた。つまり、終戦直後に日本の民主化の動きを逸早く示した党派のひとつは、旧同交會を核にした政党政治再興志向のグループだったのである。こうした経緯で準備された新党こそは、同年十一月九日に結成された、鳩山一郎を総裁にした日本自由党だったのである<sup>8)</sup>。この時期には同党以外にも相次いで政党的活動再開や結成が見られ、政党政治が再始動していった。

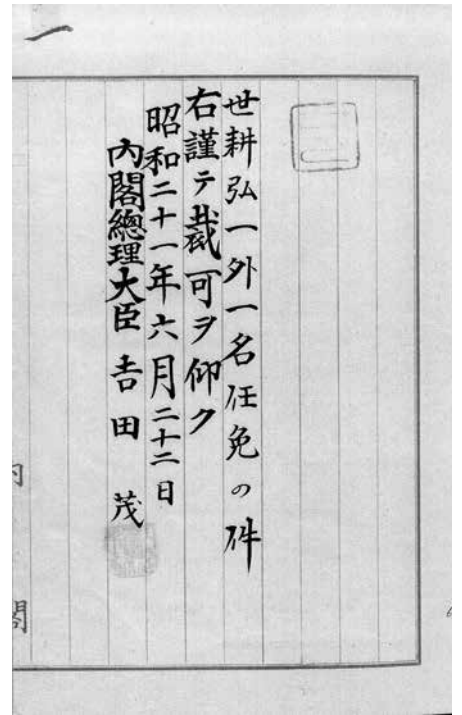
いる。内務省は明治六年十一月から昭和二十二年十二月まで存続した中央官庁であり、その所轄事項は地方行政のみならず、警察や選挙等にも及んでいた。したがって、民主主義国家としての日本の再建の時に、世耕弘一先生は内政上の最重要職に就かれたということになる。

3

かかる重要性を持つにも拘わらず、従来は世耕弘一先生の内務政務次官就任の経緯、就任の正確な月日が、一次史料に依拠して確実に把握出来ていなかった。そこで、国立公文書館に於いて真に汗牛充棟の公文書に取り組んで調査した結果、先生の内務政務次官就任の経緯及び正確な月日を示す一次史料を見出すことが出来た。更に、それを手掛かりにして関連史料を採取・分析した結果、先生の内務政務次官就任の背景もかなり判然としてきた。それ故、ここではそのような史料を挙げつつ、少しく論証したく思う。

国立公文書館所蔵の『昭和二十年任免六月十六 卷百二十四』と題する簿冊には昭和二十一年六月の官吏任免に関する史料が収録されている<sup>13)</sup>。この簿冊の冒頭部の目次に依れば、その一番目の史料は同月二十二日の閣議に付された「世耕弘一外一名内務政務次官等任免ノ件」に関するもので、この史料には、次の五点の文書が収録されている。

二党である日本進歩党（昭和二十年十一月十六日結成）との連立により、第一次吉田内閣が昭和二十一年五月二十二日に成立した<sup>12)</sup>。当選三回目の議員である世耕弘一先生は、同内閣の内務政務次官に就任されて



『昭和二十一年 六月十六 卷百二十四』（国立公文書館所蔵）収録の「世耕弘一外一名内務政務次官等任免ノ件」の第一文書

印

世耕弘一外一名任免の件  
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十一年六月二十二日

内閣總理大臣 吉田

茂 印

（欄外左肩に漢数字「一」の朱書きあり）

人閣議第九一〇號

起案昭和二十一年六月

閣議決定昭和二十一年六月二十二日

施行昭和二十一年六月二十二日

内閣總理大臣（花押）

内閣事務官

印

外務大臣（花押） 文部大臣（花押） 運輸大臣（花押）

内務大臣（花押） 厚生大臣（花押） 幣原國務大臣（花押）

大藏大臣（花押） 農林大臣（花押） 齋藤國務大臣（花押）

司法大臣（花押） 商工大臣（花押） 一松國務大臣（花押）

植原國務大臣（花押）  
金森國務大臣（花押）

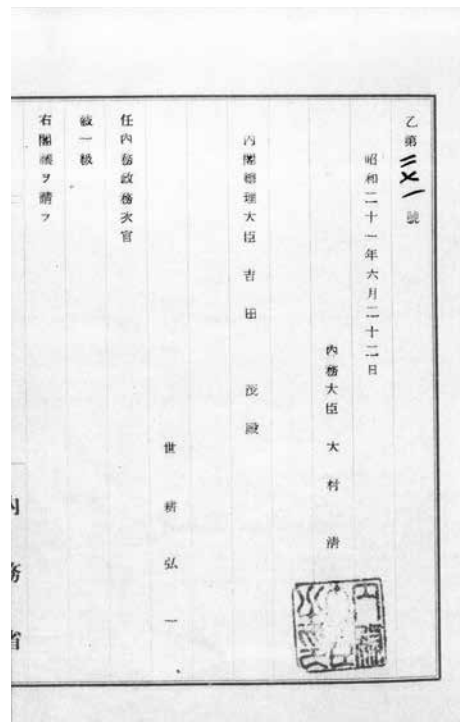
任内務政務次官

叙一級

内務政務次官 大野伴睦

依願免本官

世耕弘一



『昭和二十一年 六月十六 卷百二十四』（国立公文書館所蔵）収録の「世耕弘一外一名内務政務次官等任免ノ件」の第三文書（印の上辺と漢数字の「一」が重なっており、「大村清一」が「大村清」のようになっている。）

乙第二七一號

昭和二十一年六月二十二日

内閣總理大臣 吉田茂殿

任内務政務次官

叙一級

右閣議ヲ請フ

印

世耕弘一

（欄外右肩に「内閣人閣議九二一號」の記載あり）

乙第二七〇號

昭和二十一年六月二十一日

内閣總理大臣 吉田茂殿

依願免本官

右閣議ヲ請フ

印

大野伴睦

退官願

小官儀

一身上ノ都合ニ依リ退官致度

ニ付御聽許相成度此段及御

願候也

昭和二十一年六月 日

内閣總理大臣

吉田茂殿

内務政務次官 大野伴睦 印

右に掲げた文書だけからは、世耕弘一先生への内務政務次官任命が、如何なる行政上の過程によって為されたかを正確に知ることは難しいが、その大略は次の如くであろう。

これらの文書から按ずるに、昭和二十一年六月に内務政務次官大野伴陸が内閣総理大臣吉田茂に退官願を申し出、同月二十一日に内務大臣大村清一が内閣総理大臣吉田茂に「内務政務次官大野伴陸」の「依願免本官」、同月二十二日に世耕弘一先生の内務政務次官任命及び「叙一級」の閣議を要請し、同日に大野伴陸の「依願免本官」、世耕弘一先生の内務政務次官任命及び「叙一級」が閣議決定され、同日に内閣総理大臣吉田茂が世耕弘一先生を内務政務次官に任じて一級に叙すること及び大野伴陸を免官することの裁可を仰いだのであろう。因みに、昭和二十一年四月一日公布の「勅令第九十一號 親任官及諸官級別令」によれば、内閣総理大臣や各大臣等は「親任」とされ、各省の政務次官等は「一級」とされている。内務政務次官に任じられた世耕弘一先生が、一級に叙せらるることになったのは、この勅令が法的根拠になっていると言えよう<sup>14</sup>。

れているからである<sup>15</sup>。

●昭和二十一年六月二十二日

(中略)

任内務政務次官 世耕弘一  
叙一級

以上から、昭和二十一年六月二十二日に世耕弘一先生が内務政務次官に任ぜられた過程を公文書等によって精緻に解明出来た訳である。

更に付言すべきは、穏健な自由主義の政治家として夙に令名のあつた世耕弘一先生の内務政務次官就任は、昭和二十一年六月二十三日付け『朝日新聞』(朝刊)<sup>16</sup>では第一面右肩の紙名の真下に、次のような単独記事で報じられていることから、その反響の大きさが窺い知られる。

内務政務次官世耕氏

内務政務次官大野伴陸氏の自由党幹事長に就任の後任政務次官を二十二日の臨時閣議で自由党世耕弘一氏に決定した

4

昭和二十一年六月十四日の『官報第五千八百二十三號』にも公示されているように、大野伴陸は同年六月四日に内務政務次官に任ぜられており、何故に僅か十八日で「依願免本官」という仕儀になったかを解明しなければ、世耕弘一先生の内務政務次官就任の経緯を明らかに出来たとは言えないのである。

昭和十七年四月三十日に行われた第二十一回衆議院総選挙、所謂「翼賛選挙」では、同交会に属する大野伴陸は、非推薦候補として岐阜県一区(定員三人)で立候補したが、次点に終わった<sup>18</sup>。だが、大野は昭和二十一年四月十日の第二十二回衆議院総選挙では岐阜全県区(定員十人)に日本自由党公認で立候補し、六位で当選した<sup>19</sup>。前述の如き経緯で、同年五月四日に日本自由党総裁の鳩山一郎は公職追放に遭い、第一次吉田内閣が同月二十二日に日本進歩党との連立で成立した。

『大野伴陸回想録』によると、この内閣の内務大臣大村清一は「生粋の内務官僚」出身であるので、「せめて政務次官に党人を置かなくては」という鳩山の配慮で<sup>20</sup>、大野が同年六月四日に内務政務次官に任ぜられたのであった。だが、その直後、日本自由党幹事長河野一郎が公職追放必至となった<sup>21</sup>。これまた『大野伴陸回想録』によれば、公職追放中の鳩山がこのような時点で大野に秘密裏に電話をかけて、河野に代わって同党幹事長就任を要請し、大野は快諾したのであった<sup>22</sup>。つまり、内務政務次官に就任したばかりの大野が倉皇として退官を申し出た背景には、公職追放に由来する日本自由党の斯かる党内事情があった。

日本自由党と日本進歩党との連立による第一次吉田内閣は、終戦直後の多事多難な状況(憲法改正の問題や食糧難の深刻化や労働運動の激化)に直面し、政局安定のために日本社会党との連立を模索するが、この連立は実現できなかった。その結果、閣内に不一致が生じ、昭和二十二年一月三十一日に、四閣僚(内務大臣大村清一、文部大臣田中耕太郎、農林大臣和田博雄、運輸大臣平塚常次郎)の辞任をうけて、総理大臣吉田は内閣改造を断行した<sup>23</sup>。

吉田内閣のこの時の改造は、結局、政務次官の人事問題にも波及して行った。紆余曲折を経た後に、日本自由党と日本進歩党の協議により、「政務官全面的に一新」ということになった<sup>24</sup>。国立公文書館所蔵の『昭和二十一年任免三月二卷二六』と題する簿冊に十二番目に収録されている「本田英作外三十九名外務政務次官等任免の件」に関する史料に、この時の政務次官や參與官の任免についての文書が総て収録されている<sup>25</sup>。その中に内閣総理大臣吉田茂宛の「内務政務次官世耕弘一」の「退官願」(昭和二十二年二月)及び総理大臣吉田茂宛の内務大臣植原悦二郎の「内務政務次官世耕弘一」と「内務參與官桂作蔵」の「依願免本官」についての閣議を請う文書(昭和二十二年三月五日)が収録されている。同じくここに収録されている「本田英作外三十九名任免」について「裁可ヲ仰ク」文書及び閣議書の日付は



「三月三日」であるから、内務大臣の閣議を請う文書は事後的に提出されたものであろうか。要するにこの時の政務次官及び參與官三十九名の任免については、昭和二十二年三月三日に閣議決定され、同日にその裁可が仰がれたということになる。

『官報 第六千四十五號』に林連が昭和二十二年三月四日に内務政務次官に任命されたことが公示されているから<sup>26</sup>、世耕弘一先生が内務政務次官を退かれたのも同日であると判断される。

## 5

世耕弘一先生の内務政務次官在任中の多彩な御活動については、今後尚一次史料を探索して、改めて仔細に論じなければならぬが、本論では「隠退蔵物資等處理委員會」（昭和二十二年二月十五日の閣議における「了解」で設置<sup>27</sup>）の副委員長<sup>28</sup>としての御活動の伏線をなす点について指摘して、締め括りたい。

第一次吉田内閣で大蔵大臣を務めた石橋湛山に対するインタヴューの結果が、昭和二十二年七月二十九日『讀賣新聞』（朝刊）に「物はある、摘発を急げ 『現閣僚に關係者』は言い過ぎだ」という見出しの記事として、掲載されている<sup>29</sup>。そこに、内務政務次官に就任直後の世耕弘一先生の動静の一端が、次のように語られている（原文中の振り仮名の省略その他により、分かり易くした）。

（前略）隠退蔵物資摘発問題の経緯を説明すると、たしか経本のできる直前だつたと思う、大蔵大臣だつた僕のところ、世耕君が三月危機突破のカギだといつて隠退蔵物資の話を持ちこんできた

「日本があれだけの大戦争をやつてきたのだから敗戦後の今日でも少くとも千億やそこらの品物は日本のどこかに隠れている、自分の知っている者を使って調査した結果でも五百億はある」

と調査リストの一部をみせた、僕もその説には同感した、（中略）経本が出来たので、経本に摘発の機関をつくつてやるのがい、と思ひ、世耕君のよこした資料や僕の家や書類一切膳君（当時の経本長官膳桂之助氏）に引渡した、この問題は（中略）膳君の時代にはついに正式に着手されずに僕が経本に入つてから着手されたわけだ、（中略）最初経本にしつかりした機関を作つてやるつもりだつたが（中略）取敢えず委員会で作ることにした、（中略）僕は世耕君の熱意を買つていたし世耕君に活躍してもらうために委員会制度で発足したのだ、僕は委員長ではあるが実際の仕事は委員の人選その他世耕君に任せて彼の活躍を期待したわけだ、（後略）

この記事に出てくる「経本」とは、昭和二十一年八月十日の「勅令第

三百八十號」で公布された「經濟安定本部令」により発足した「經濟安定本部」のことであり、「内閣總理大臣の管理に属し、物資の生産、配給及び消費、勞務、物價、金融、輸送等に関する經濟安定の緊急施策について」総合的に司るものであった<sup>30</sup>。

また、「三月危機」については、經濟学者の有澤廣巳（一八九六一一九八八）が次のような貴重な証言を残している<sup>31</sup>。終戦後に商工省官房企画室で有澤も参加して「戦後のこれからの商工政策」についての検討が開始され、やがて「生産再開を早くはじめ」ることが議論の中心となった。「敗戦で崩壊した日本の経済はいわゆるストック、軍放出物とか、あるいはその他の会社企業を持つていたストックで食いつなぎの生産をしている」が、「そのストックはどれくらいあるか」調査した結果は、「いろんな産業によつてちがいはあつたが、早いものは翌年の三月」に「だいたい枯渇する」ことを示していた。そこでこの会合では、このままいくと「翌年三月」ごろ、つまり昭和二十二年三月ごろから、「早い産業ではストックがなくなり、生産がガタおちになるといふこと」で、「三月危機」といふ言葉を使つていた。「この言葉がいつのまにかわれわれの会合の外でも流布されて」、此処彼処で「三月危機説」として使われ始めた。つまり、昭和二十二年三月には日本経済は破綻するという説が流布したのである。

日本の陸海軍は本土決戦に備えて各種の物資を大量に備蓄していたが、陸海軍解体の後に所有権が不明確となった物資が流出し、勝手に隠匿されたりして「隠退蔵物資」となつていた。世耕弘一先生は内務政務次官就任直後に、逸早くこのような「隠退蔵物資」の調査に着手され、「經濟安定本部」設立の直前である昭和二十一年夏には調査リストを作成され、「隠退蔵物資」の摘発によつて「三月危機」を突破することを大蔵大臣石橋湛山に提案されたのであつた。

「ミネルヴァの梟（die Eule der Minerva）」は闇深まりて初めてその飛翔を開始する。」というのは、ドイツの哲学者ヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel 1770-1831）の著書『法哲学要綱』の「序言」に於ける余りにも有名な言葉である<sup>32</sup>。漆黑の闇が深まり、凡余の鳥が見通しを欠いて巢籠りに及ぶ砌、森の賢者の梟のみは瞳を金色に輝かして果敢に飛翔し始めるのである。日本経済が破綻に瀕して、塗炭の苦しみを味わう国民を救済する為に、世耕弘一先生は隠退蔵物資を摘発する行動を敢然と開始されることになるが、その点については改めて論究することとして、今回はこれにて擱筆したい。

## 注

- 1 回想世耕弘一編纂委員会編『回想世耕弘一』（回想世耕弘一刊行会 昭和四十六年）一〇頁。
- 2 NARA所蔵史料・国会図書館

- 所蔵マイクロフィルム、IPS-9・R071 DOKOKAI.
- 3 大下宇陀児『土性骨風雲録 教育と政治の天下人 世耕弘一伝』(鏡浦書房 昭和四十二年)四五六頁。
- 4 長澤規矩也編『和刻本諸子大成 第八輯』(汲古書院 昭和五十一年)三九九頁。但し、本書にある返り点は省いて、白文にして引用した。また、書き下し文は、楠山春樹『淮南子 下』(新釈漢文大系62)(明治書院 昭和六十三年)に依拠した。『淮南子』の「塞上之人」の件は、わが国では「塞翁が馬」の「禍福は糾える繩の如し」として言い習わされている。
- 5 古典研究会発行『和刻本正史 史記(二)』(汲古書院 昭和四十七年)一〇一九頁。白文にして引用した。書き下し文は、青木五郎『史記 十一(列伝五)』(新釈漢文大系92)(明治書院 平成十九年)等に依拠した。
- 6 例えば、同交会に所属して非推薦候補として戦い、当選した安藤正純、川崎克、北吟吉、鳩山一郎は公職追放になっている(楠精一郎『大政翼賛会に抗した40人 自民党源流の代議士たち』「朝日新聞社 平成十八年」八頁)。
- 7 JACA(アジア歴史資料センター) RefA06030030000「鳩山派新党結成準備會開催ノ件」昭和二十年九月二十八日付「官情報第七〇八號」(国立公文書館)。
- 8 『讀賣報知』(朝刊)(昭和二十年十一月十日)。
- 9 大下前掲著四五六頁。
- 10 『讀賣報知』(朝刊)(昭和二十一年四月十四日)。
- 11 『毎日新聞』(朝刊)(昭和二十一年五月五日)。
- 12 『讀賣新聞』(朝刊)(昭和二十一年五月二十三日)。
- 13 国立公文書館所蔵『昭和二十年 任免六月十六卷百二十四』(2A-043-00・B04261100)。この簿冊の三番目の史料として「内閣政務次官世耕弘一任命の件」も収録されており、そこにある三点の文書から按ずると、次の如くなる。昭和二十一年六月二十二日に「内務次官」は内閣書記官長に対して「内務政務次官」の世耕弘一先生を「第九十四帝國議會内務省所管事務政府委員」に任命することの取計をお願いし、同日に世耕弘一先生は「第九十四帝國議會内務省所管事務政府委員」に「仰付」られて、同日に内閣総理大臣吉田茂が、内務政務次官世耕弘一先生の「第九十四帝國議會内務省所管事務政府委員」任命の件につき裁可を仰いだということであろう。
- 14 JACA(アジア歴史資料センター) RefA04017814400「御署名原本・昭和二十一年・勅令第九十一號・親任官及諸官級別令」(国立公文書館)。「ハ」に「一級」官はそれまでの勅任官に相当する。
- 15 『官報 第五千八百三十七號』(昭和二十一年七月一日)。
- 16 『朝日新聞』(朝刊)(昭和二十一年六月二十三日)。
- 17 『官報 第五千八百二十三號』(昭和二十一年六月十四日)。
- 18 大野伴睦先生追想録刊行會編集委員編『大野伴睦―小伝と追想記―』(大野伴睦先生追想録刊行會 昭和四十五年)五十一頁。
- 19 前掲書五六―五十七頁。
- 20 大野伴睦『大野伴睦回想録』(弘文堂 昭和三十七年)九十九頁。
- 21 『讀賣新聞』(朝刊)(昭和二十一年六月二十二日)の記事によれば、自由党幹事長河野一郎は「公職追放令該当が明確になった」ので、同月二十日夕刻に同党幹部會は河野の後任として大野伴睦を推し、大野も同党幹事長就任を了承した。
- 22 大野前掲著九十九頁。
- 23 猪木正道『評伝吉田茂(下)』(読売新聞社 昭和五十六年)二七四―二七五頁。『讀賣新聞』(朝刊)(昭和二十二年二月一日)。
- 24 『讀賣新聞』(朝刊)(昭和二十二年二月四日)。
- 25 国立公文書館所蔵『昭和二十年 任免三月二卷二十六』(2A-043-00・B04379100)。
- 26 『官報 第六千四十五號』(昭和二十二年三月十一日)。
- 27 国立公文書館所蔵『昭和二十二年 任免三月 略式閣議綴(五) 内閣官房』(2A-029-04・B357500150100)収録「隠退蔵物資等処理要項」(国立公文書館デジタルアーカイブ)。
- 28 早稲田大学中央図書館所蔵『隠退蔵物資等處理委員會』(3321-337)収録の「隠退蔵物資等處理委員會委員名簿」。
- 29 『讀賣新聞』(朝刊)(昭和二十二年七月二十九日)。
- 30 『官報 第五千八百七十三號』(昭和二十一年八月十二日)。
- 31 安藤良雄編著「昭和經濟史への証言 下」(毎日新聞社 昭和四十一年)二八〇―二八一頁。所謂「三月危機」については、様々な説明があるが、ここでは有澤の証言に従い、「三月危機」という語の意味と由来を示すに止めた。
- 32 Georg Wilhelm Friedrich Hegel *Grundlinien der Philosophie des Rechts oder Naturrecht und Staatswissenschaft im Grundrisse. Mit einem Vorwort von Eduard Gans* Stuttgart-Bad Cannstatt 1964S.37.

## 追記

- 一、近畿大学の関係者のみは「先生」としたが、それ以外の人士については敬称を省いているので、この点は諒とされたい。
- 二、原典尊重の観点から引用史料の表現・漢字は、原則として、そのままになっている。
- 三、本広報の一行の文字数と引用した原史料のそれが違うために、改行が原史料の通りにならない場合もあるが、その点は諒とされたい。

世耕弘一先生の直筆寄贈紹介  
「七轉八興」と「手紙」

元有田川町議会議長

大岡憲治氏のご遺族から

和歌山県有田川町で町議会議長を務められた大岡憲治氏のご遺族からこのほど、世耕弘一先生直筆の書と手紙が寄贈されました。

「七轉八興」は縦五〇センチ、横一七〇センチの横額で、「寿山」の雅号と落款がきれいに残っています。手紙は、昭和二十四年四月と記載があり、「国務大臣経済企画庁長官 世耕弘一」と署名されています。

この書と手紙は、大岡氏のご尊父、国一氏が弘一先生からいただいたものとして伝わっています。国一氏は当時生石高原の集落に住まわれており、林業に携わられていました。そのことから、住民の取りまとめ役として附属生石農場の開設に尽力いただき、またご自宅に本学関係者を宿泊させてくださっていたそうです。

ご遺族の方からは、弘一先生と国一氏の間にこのようなご縁があり、書と手紙を弘一先生からいただくことができたのだらうと、お話しをうかがうことができました。

国一氏の逝去後はご子息である憲治氏が家宝として、書と手紙を大切に守ってこられました。憲治氏も平成二十二年に逝去されたことで、

ご遺族から、このたび建学史料室にご寄贈いただくことになりました。



世耕弘一先生（寿山は雅号）揮毫の「七轉八興」

不倒館エピソード  
近大オールスターズの活躍

建学史料室 木村 道子

不倒館創設者世耕弘一記念室は、週に二回の通常開館のほか、入学式など主な大学行事にあわせて開館しています。中でも、年に四回（合計五日間）開催されるオープンキャンパスは、不倒館への訪問者が一番多い行事で、一日に三百人以上、多い時は五百人を上回ることもあります。

この記録に大きく貢献しているのが、近大オールスターズです。

近大オールスターズは、オープンキャンパスを盛り上げるために結成された本学学生によるボランティア団体です。宣伝班、グッズ班、街づくり班、学内キャンペーン班の四つの班で構成され、オープンキャンパスに向け、団結して準備を進めます。広報部を中心に、学生・大学・地域の連携を担う、オープンキャンパスの成功に欠かせない重要な存在です。オープンキャンパス当日は、ゲスト（来場者）の要望に合わせて、学内を案内して回るガイド役を請け負い、「現役学生の生の声を聞くことができる」と人気を集めています。この近大オールスターズが、おすすめスポットのひとつとして、不倒館を紹介しています。はじめは、不倒館まで引率するだけだった彼ら

も、ゲストの方々と一緒に私たち職員案内を聞くうちに、内容を覚えて、積極的に説明するようになりました。

そのうち、先輩から後輩への引き継ぎ資料が作られるようになり、不倒館に関する説明から人力車での記念撮影まで、一連のご案内を引き受けるメンバーも増えていきます。

不倒館の説明には、個性が表れます。「反骨の政治家 世耕弘一」のコーナーで、隠れ蔵物資摘発や国務大臣時代の写真資料等の紹介に力が入る学生、弘一先生が拝受した「勲一等瑞宝章」を誇らしげに説明する



平成 25 年 7 月 弘一先生肖像画の前で説明



平成 24 年 3 月 人力車での記念撮影

学生、ジオラマを使って、近畿大学の附属学校や施設を案内する学生。方法はそれぞれですが、共通して感じられるのは、近大オールスターズの皆さんが、近畿大学への自校愛を持って説明していることです。

また、オープンキャンパスにゲストとして来場していた高校生が、入学後、近大オールスターズの一員となつて、不倒館を案内している例もあります。そして、かつて、自分がしてもらったように、「世耕弘一先生の苦学にあやかつて、受験勉強に全力で取り組めるよう、人力車に乗って撮影しましょう！」と呼びかけ、「近畿大学に合格しますように！」と願いを込めてシャッターを押します。ゲストの皆さんも「頑張るぞ!!」とガッツポーズをしたり、元気にピースサインをしたりと笑顔で応じています。

平成二十七年年度の近大オールスターズ代表を務めた中本啓太さん(理工学部三回生)は、「オープンキャンパスでのご案内を通して、不倒館にある人力車が、苦学の象徴であり、ここに『学びたいものには学ばせたい』という大学に込められた思いがあることを知ることができました。これを、少しでもたくさんの方々に伝えたいと思つていまして」と熱く語っていました。

同様に、オープンキャンパス経営学部リーダーを務めた宮本悠可さん(経営学部三回生)は、「私が、ゲストの皆さんにご説明するのを横で聞

いて、『なぜ、そこまで知つているのですか』と驚いていた後輩たちが、いつの間にか私と同じように、不倒館をご案内するようになっていてうれしかったです。また、私たちの説明に、興味深く耳を傾けてくださる高校生や保護者の方がいらつしやると、また頑張ろう」と力が湧いてきます」と話していました。

### 不倒館を訪れた方々

附属小学校の「きんちゃんしょうちゃん」の二人が平成二十七年九月二十七日、不倒館にやってきました。



人力車に乗って、ポーズをきめるきんちゃん(写真左)しょうちゃん(写真右)

きんちゃんしょうちゃんは、附属小学校の児童の仲間。主な学校行事に参加して、活躍しています。今年の運動会では、体操服に着替えて児童たちと一緒に競技を楽しみました。

本学東大阪キャンパスで、オープンキャンパスとホームカミングデー同時開催のこの日、きんちゃんしょうちゃんが現れると、「かわい」と注目の的。ゲストの皆さんや教職員と握手をしたり、一緒に写真撮影をするなど、行く先々で人気者でした。

不倒館では、世耕弘一先生の苦学の象徴である人力車でポーズ。不倒館で学んだことを附属小学校でも紹介してくれることでしょう。

### 不倒館入館者数の報告

平成二十一年九月に開設以来の不倒館入館者数を年度別で報告します。

平成二十一年度	一九五一人
平成二十二年度	二四四六六人
平成二十三年度	二五七九人
平成二十四年度	二九七一人
平成二十五年度	四一七二人
平成二十六年	三四八八八人
平成二十七年	三二〇八八人
平成二十八年二月末現在	

総数 二〇七七一五人

### 建学史料室からのお願い

#### ▼史料収集

世耕弘一先生、政隆先生、弘昭先生ご生前の関係史料(出版物、書籍、写真、録音テープ、ビデオ、その他何でも結構です)を、現在もお手元に保管されている方々を、その関係史料のご寄贈又は複製でのご提供を賜りたく、当史料室では広く皆様方にご協力をお願いしております。

詳細につきましては、史料室へご一報いただければと思います。

#### ▼ホームページ

不倒館の開館日・時間は、近畿大学ホームページ「不倒館」創設者 世耕弘一記念室」のサイトでお知らせしております。

近畿大学ホームページのトップ右下にある(不倒館 創設者世耕弘一記念室 立像の画面)を選択してください。

#### ▼ご意見感想をお待ちしています

本誌や不倒館ホームページへのご感想やご意見をお寄せください。お寄せいただいたお便りについては、今後の本誌などの編集に役立てさせていただきます。また、こちらからお問い合わせをさせていただく場合や、広報誌の中でお名前とともにご紹介させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

#### お問い合わせ先

〒五七七-八五〇-二  
東大阪市小若江三-四-一  
近畿大学建学史料室  
電話(〇六)四三〇七-三〇九二  
(ダイヤルイン)